

創刊に当たって

コミュニティ政策学部長

中 田 實

1998年4月、わが国初の名前をもつコミュニティ政策学部が愛知学泉大学に誕生した。この学部は、本学の教育研究領域の展開の上で、そして現代社会の構造的展開によって、生まれるべくして生まれた学部である。

まず、本学はすでに家政学部と経営学部を擁して、人間が構成する基本的集団である家庭と企業について教育研究を行ってきた。今回のコミュニティ政策学部の設置は、人間の構成する残された第3の基本的領域である地域社会および公共的社会を対象とするものであった。これにより、本学は、人間社会研究の基本的領域の全体をカバーすることになったが、それと同時に、これら3つの領域を総合し、相互に関連づける視点（広義のコミュニティ）をも獲得することができた。家庭と企業と地域は、それぞれ独自の構造と機能、使命を帯びるが、それぞれに他の2領域との調和ある共生が不可欠であり、グローバル化と分権化のもとでの少子・高齢社会の成熟を想起するだけでも、そうした関係によってのみ社会が存続、発展できることを理解されよう。

本学部は、広く政治・経済・社会・文化・環境の世界でコミュニティの原理が形成・展開・確立していくための政策目標と政策過程および政策手法を理論的、実践的に解明することを課題としている。この点では、「コミュニティ」の内実および政策展開の理解について、現在なお大きな開きがあることは否定できない。この開きを埋めていくためには、先行諸学の成果の摂取と批判的組み替えが必要である。本学部教員の専門領域はきわめて多彩であるが、それらを総合し、新しいコミュニティ政策学へ結晶化させていくことが、われわれの課題である。

本紀要は、この課題の具体化を促す媒体であるとともに、その成果を示すバロメータでもある。政策系学部の一つとして実践的性格を失うことなく、この紀要が、新たな学問の創造とその政策的実現に貢献できる学術機関誌となることをめざして、第一歩を踏み出したいと思う。

創刊に当たり、決意を述べて、ご叱正とご支援をお願いするものである。

1999年2月